て吾人の認むべきものは唯人格的たるに止まるにあらずして非人格的のものも亦その存在を認めざるべからずと一々興味ある事實を擧げて論述せられ。次に濱田學士は紀元第一世紀の終頃より六世紀の終頃に亙り所謂ゴシック美術成立以前の基督教美術に就てその技術が尙頗る幼稚なるに拘らずしかもその溢るゝ如き基督教的精神を示さんとせる煩悶の表現に多大の價値ありとせられ、墳墓、寺院、彫刻、繪畫の一々に就て多趣なる紹介を試みられ、特にCatacomb及びBasilica等に就ては大に明快にして興味深き論評を發表せられ、東洋美術との關係にも及ばれ感興頗る大なるものありき。最後に樺博士はサマリヤと摩登伽女との比較より摩登伽經內容の詳細なる紹介に進み、その思想を或は文學或は言語に或は宗教學乃至考證學等あらゆる方面より觀察批評せられ、佛典研究上新方面開拓の必要及方法にも論及し、簡單に本經成立の考證をも試みられ本經を以て第三世紀頃の印度の學問、思想を傳へるものと見るを得べしと述べられたり。(尙本大會講演は追て「宗教研究」誌上に掲載せらるゝ筈)。

來會者講演者の外に松本、坂口、深田の諸教授、寺本講師、羽溪、赤松、藤井、原、鳥越、楢崎、中川、高藏、本田の諸學士、その他二百餘名、六時閉會。

尙講演後學生集會所に於て晩餐會を開き論談數時、九時散會。

## ロッツェ誕生第百年記念

本年五月二十一日はヘルマン・ロッツェの誕生第百年記念日に相當する。ロッツェは固よりカントの樣に哲學思想の根本的轉廻を仕



遂げた獨創的の大思想家でもなく、又たヘーゲルの樣に神秘的深味と、嚴正細密な概念的思索と、一切を包容する大體系組識とを兼ねた偉大な哲學の大成者でもないが、併しヘーゲル及びヘルバルト以後に於ては、最偉大な思想家であり、殊に獨逸哲學の最盛期と哲學復興の現代との橋梁となつて前を承けて後を起したといふ點に於て今日の吾々は彼に重要な意義を認めねばならぬと思ふ。吾々は斯る趣旨よりして此記念日を機會として同人合作の「ロッツェ」を公刊して彼れに獻ぐると共に、之より得たる收益を以て創立日尙ほ淺き吾京都哲學會の基礎の固くする料とすることゝした。

尙ほ去る五月二十日に開かれた京都哲學會春期公開講演會に於ては半ばロッツェ誕生紀念の意味を兼ねて左の講演が有つた。

ロッツェの時代　文學博士　朝永三十郎

感情の心理　文學士　野上俊夫

右の外文學士歸田義富君の「ロッツェの妥當に就て」の講演がある豫定であつたが同君に不得已故障が有つて之れを缺いたのは遺憾であつた。

# 新著紹介

## 思潮　創刊號

「思潮」は阿部次郎氏などによつて先月から創刊せられた雜誌である。此の雜誌の主意は發刊の辭に於ても窺はれるやうに、現代文明の批評と優れたる文化の建設とに廣く大なる基礎を築かんと

する所にあるのであらう。斯くの如き主義が如何なる主張を生むか、又この如き主張が如何なる結果を齎すかは一に向後此雜誌の發展に期待すべき事柄であるが吾人は此等同人の眞摯なる態度と熱心なる研究とに對して常に尠なからざる畏敬と同情とを抱くものである。吾人は此等若き同人が特色ある主義と主張とによつて我國現代の文化に對し多大なる貢獻を齎す日を切望して此新らしく元氣ある雜誌の創刊を祝して置きたいと思ふ。初號には阿部氏のダンテ、西氏の道德の原理、石原氏のルーター、和辻氏の日本の文化の研究等面白き讀物がのせられてある。(東京神田區神保町岩波書店發行定價一部二十五錢)

## 寄贈書籍雜誌

聖德太子傳　境野黃洋著　丙午出版社
美學　文學士　阿部次郎著　岩波書店
現代哲學批判　文學士　村澤喜代人　征矢野晃雄共譯　目黑書店

哲學雜誌、思潮、丁酉倫理講演集、心理研究、六合雜誌、東洋哲學、無盡燈、東亞之光、學校教育、教育、內外教育評論、普通教育、教育研究、教育界、教育時論、東京教育、京都教育時報、兵庫教育、奈良縣教育、靜岡縣教育、滋賀縣教育、岐阜縣教育、三重縣教育、愛知縣教育雜誌、信濃教育、佐賀縣教育、藝備教育、宮城教育、愛媛教育。

## 前號目次


ヘルマン・ロッツェ……文學博士　朝永三十郎
自覺に於ける直觀と反省(完結)……文學博士　西田幾多郎
美學の基礎に就ての考察(承前)……文學博士　深田康算
ダヤーナンダの性行……文學士　羽溪了諦
リボー先生の思ひ出……文學士　野上俊夫
口繪
ロッツェの肖像……